

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

西洋の庭園と日本の「**禅の庭**」には明らかな違いがあります。典型的な西洋の庭園の基本的な構成はシンメトリーであることでしょう。庭園の左右がまったく対称なデザインをなし、植えられている花の種類や色、樹木の高さや刈り込み方、**芝生**に描かれる模様……といったところまで、ほとんど寸分の狂いもなくつくられています。

そこから受ける印象は人工的につくり込んでいるということでしょう。庭園がつくりやすいように敷地を平らにならすことから始まり、デザイン通りに必要な花々、木々を植えていく……。自然をそのまま活かすという発想はありません。

これは西洋の自然観によるものでしょう。西洋において自然は人間がどう扱ってもいいものと考えられています。背景になっているのはキリスト教です。キリスト教では、神が人間をつくり、その人間を支えるのが自然だと考える。

自然は人間の**I**です。ですから、どう手を加えてもいい、ということになるわけです。庭園の構成に必要ななら、どこから花をもつてきてもいいし、高さをそろえるために木を切ってもいいことにかまわない。それが西洋流です。

自由に人の手を入れるわけですから、思い通りに庭園をつくることができます。デザインを完全に反映させた庭園が生まれる。

日本の自然観は違います。自然に対しての**畏怖**や敬意が自然観の**基盤**になっているのです。自然は人間のサポート役ではなく、パートナーとして存在しています。ですから、いたずらに手を加えることはしないのです。

〈A〉「**禅の庭**」をつくる際もデザイン、図面を引きますし、それを頭に入れますが、実際に現場に入るときは図面をもちません。周囲の環境や風の流れ、光の状態など、その場の自然から感じとることを大切にしながら、石や白砂などの素材を配していきます。ですから、デザイン、図面を完全に反映した「**禅の庭**」にはなりません。

**1**、その不完全性にほんとうの「**禅の庭**」の美があるかとわたしは考えています。「**禅の庭**」はつくり手のそのときの心を表現したものです。そして、「**禅の庭**」の美の**中核**にあるのはその心なのです。心は図面で引くことはできません。**2**、図面を超えた不完全性のない表現する以外にはないのです。

〈B〉図面をそこに表現すればそれですむからです。一方、「**禅の庭**」はまったく同じ土地に、同じ素材を使って、同じテーマ、コンセプトでつくったとしても、けっして同じものにはなりません。

**II**がそのときどきで違うからです。石の組み方、植栽の配し方、白砂の敷き方などを決めるのは心ですから、同じになるはずがないのです。

西洋庭園の特徴は、完全に整った**アットウ的な量感と色彩**のあざやかさでしょう。〈C〉それが見る人に訴えかけ、美しいと感じさせるのです。

「**禅の庭**」、とりわけ**枯山水**などは量感ともあざやかな色彩とも無縁です。そこに展開されているのは静かで、簡素な**佇まい**です。見る人が感じる美しさも、西洋庭園とは大きく違っています。

**清々しさ**、**凜としたトギ澄**まれた空気、**穏やかさ**、**安らかさ**……。 「**禅の庭**」から感じる美しさは、おそらく、そうしたものだと思えます。その美の源は見かけの景観というよりは、その空間につくり手が込めた心ではないでしょうか。

つくり手の心が伝える「何か」に見る人の心が共鳴して、そこに美しさを感じとる。「**禅の庭**」にはそんな巧まざる「仕掛け」があるのです。

「**禅の庭**」を構成する素材は石、白砂、水、植栽……といったものだけではありません。もうひとつきわめて重要な素材があるので。何も**ない空間**、すなわち「**III**」がそれです。

「何も**ない空間**が素材？」  
疑問を感じる人が少なくないかもしれません。では、ここで「**禅の庭**」を思い浮かべてみてください。二つの石が置かれ、白砂が敷かれた**枯山水**です。

二つの石はある空間をあけて置かれています。もし、その空間がもう少し広がったり、狭かったりしたらどうでしょう。枯山水から受ける印象は違ったものになるはず。 **2**、空間によって印象が変わるのです。

そうであれば、(何も**ない**)空間は、石や白砂と同じように、**枯山水**の印象をつくっている、 **3**、印象を左右する素材である、といえませんか。そう、「**禅の庭**」で余白がはたしている役割はとても重要なのです。

そのことに関連するのですが、わたしは以前、アメリカで**コウエン**をさせていたことがあります。その際、現地の女性からこんな質問を受けました。

**3** 「京都の**龍安寺**の石庭は、なぜ美しいのですか？」

その女性は龍安寺に行って石庭を見たことがあるということでしたが、美しさの理由がわからなかった、というのです。〈D〉アメリカの合理主義を思えば、**出てしかるべき質問**だったかもしれませぬ。

わたしは答える代わりに、その女性にこう問いました。

「お答えする前にうかがいますが、石庭の前であなたは何をされましたか？」

とくに何もしなかった、と答えた女性にわたしは重ねて質問しました。

「歌をうたいたいと思いましたが？ あるいは、昼寝をしたいと思いましたが？」

もちろん、女性の答えはどちらも「NO」でした。4、わたしはこういったのです。

「それが答えなんですよ」

歌や昼寝はたまたま例にあげたもので、わたしが知りたかったのは、石庭を眺めながら、何かほかのことがしたい、という思いが湧いたかどうか、ということでした。思いが湧くということは、そのことに心がとらわれたということです。心に石庭以外が入り込んだといってもいいですし、石庭から心が離れたといってもいいでしょう。

しかし、女性は何ものにもとらわれることなく、じっと石庭の前に立ちつづけていたのです。禅では「一味(ひとつ)になる」といういい方をしますが、石庭と一体になっていたのだと思います。

表現を変えれば、石庭が醸し出す空気感のなかで、その女性の心は心地よさだけに包まれていた、といってもいいでしょう。女性は小一時間、石庭の前に立っていたといえます。心がそんな状態でなかったら、それほど長い時間そうしていることはできなかったはずです。

眺めていると、心が心地よさに包まれる、心地よさが心にあふれてくる。ここでの対象は龍安寺の石庭ですが、対象が何であっても、人をそのような状態にいざなってくれるものは美しいのです。

その美しさはもちろん、石庭を構成している素材、その配置の仕方などが相まって生まれるものですが、「禅の庭」のデザイナーとしてのわたしの見立てをいえば、とくに利いているのは手前の「余白」です。

余白という素材を心にくいほどみごとに使いこなしている。龍安寺の石庭を訪れる度に、その思いが強くなります。

(杣野 俊明 『人生は凸凹だからおもしろい』による)

※1 枯山水……水を用いず、ただ地形によって山水を表す庭。京都にある大徳寺の大仙院や、龍安寺の庭が有名。

※2 石庭……岩石で構成した、日本風の庭園。枯山水も石庭の一種。

問一 ①②③④⑤のうち、カタカナは漢字に直して楷書で、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 1 「タイショウ」を漢字で表したものと正しい表記を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 対象 イ 対照 ウ 対称 エ 対償

問三 1 4 を補うのに最も適当な言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ そこで ウ なぜなら エ つまり オ たとえば カ あるいは

問四 a・bの意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 畏怖(いふ) ア 驚き感心すること。 イ 束縛を感じることに。

ウ 罪の意識を抱くこと。 エ おそれおののくこと。

b 出てしかるべき ア 出てもらいたくない。 イ 出るとは思いもよらない。

ウ 出るのが当然である。 エ まれに出ることがある。

問五 I III を補うのに最も適当な表現を、Iは五字、IIは六字、IIIは二字で、それぞれ文中から抜き出しなさい。

問六 自然観の違いによって現れる、西洋の庭と日本の庭(禅の庭)の違いについて述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 西洋では人間が自然を自由に扱ってもいいと考え、デザイン通りの完全に整った庭園をいくつでもつくることができる。一方、日本では自然への畏怖や敬意が基盤となつて、自然をそのまま活かそうとするので、図面通りの庭をつくらうとはしない。

イ 西洋では自然は人間を支えるものと考えて思い通りに庭をつくり、すべてシンメトリーの色彩あざやかな庭園になっている。一方、日本では自然にいたずらに手を加えず、石や白砂などの素材を用いた静かで簡素な庭に、美しさを感じとっている。

ウ 西洋では人間が自然に自由に手を入れ、つくり手の心に浮かんだ華やかなデザインの庭園をつくるのが求められる。一方、日本では石や白砂など限られた自然の素材しか使えないので、静かで簡素な佇まいの清々しい庭になってしまう。

エ 西洋では自然を不完全な素材にすぎないと考え、人工的なデザインによって完全な姿となるように庭園をつくり込む。一方、日本では自然はそのままの姿が最も美しいと考え、図面よりも現場で感じることを活かした庭園をつくる。

問七 次の一文は、(A) (B) (C) (D) のどこに入りますか。記号で答えなさい。

【西洋の庭園はまったく同じものをいくつでもつくることができます。】

問八 2 「図面を超えた不完全性」をもった庭に「禅の庭」がなるのはなぜですか。その理由が最も具体的にわかる一文を文中から抜き出し、その最初と最後の五字を答えなさい。その際、句読点も字数に含めます。

問九 3 「京都の龍安寺の石庭は、なぜ美しいのですか？」という質問に対して、筆者は石庭の美しさとはどんなものだと考えていますか。文中の言葉を用いてわかりやすく説明しなさい。

